



# 音楽学部からのたより

## 『トリ小屋』から花のキャンパスへ

器楽学科非常勤講師 塚原 真子

あの長い坂の途中の木造二階建校舎（通称トリ小屋）で、短大音楽科が始まったのが1953年。当時、鎌谷たる教授陣の端に加えて戴いて最年少だった私が今では最年長になり、いつ頃からか頂戴した渾名が「鬼の三塹」（手塚、塚本尚先生と私）。その鬼の角も長い年月の間に消えてしまいました。初めの頃は、自分が厳しく教えられた通りに一つの型に嵌め込む夢中で、生徒を叱咤激励し、泣かれてしまった事もありました。その泣き顔を思い出しながら、「どんな生徒にも必ず良い点が隠れている筈だ。それを見付けて可能な限り伸ばす様に努力するのが自分の使命なのでは」と考えました。教えるながら私自身も多く貴重な発見をしたものでした。そして、「特にピアノでは、腕、手首などに無理な力を入れず、心に湧いてくる感情や頭に浮かぶイメージを、自然に飾り気なく誠実に表現できるよう努力してこそその演奏が音楽になり得る」と考える様になりました。勿論基礎技術の習得についても厳しく教えてきました。四年制大学を望む人が多く、短大の生徒を集めるのに一苦労でしたが、1989年になって四年生大学への夢が叶えられ、来春は第一期生が卒業します。校舎も山手に加えて緑園都市の丘の上に建設され、文字通り緑豊かな緑園キャンパスは四季の花に彩られ、女学院にふさわしい環境が整備されています。今年も始まって早々に、室内樂や協奏曲のオーディションが行われ、学生達が意欲的に受けたので、協奏曲などは応募者13名に対し出演できるのは3名という大激戦で、参加を断念した者もある程でした。ピアノ科学生達の自主運営によるゾンダー・コンツェルト（ピアノソロによる昼休みの演奏会）も既に3回開かれ、7月下旬に前期試験が行われます。課題曲はレベルが高く（例えばベートーヴェンのソナタ全奏章）、自由曲も9分位の作品に指定されました。ピアノの学生にもオルガンが必修になり、希望者にはヴィオラ・ダ・ガンバのレッスンも用意されています。その他、二台のピアノのアンサンブル、伴奏法、讃美歌学などを必修に加えられ、一日の授業終了は午後6時半。この様に充実した毎日を通している学生達は自由活発で伸び伸びています。現代っ子らしくチャンスを積極的に生かし、自分をアピールすることにも熱心です。試験の時でもリボンや髪飾りを付け、以前より服装などにも気を配り、明るく楽しい雰囲気を感じます。この様に態度や服装などセンスの良さが感じられる事も音楽の魅込と無関係ではない筈です。卒業後ウィーンやパリで勉強している人、ソロや室内樂で活躍している人など卒業生の嬉しいニュースも多くなりました。フェリス短大音楽科は少数精鋭主義で始まり、そのまま四年生大になった今も続いています。本物の音楽を教えられる熱心な先生方に恵まれ、「他の有名音大卒業生に比肩する実力あり」と言われた短大出身者が築いた栄光は、四年制大学出身者に引き継がれ、本物の音楽を身に付けた音大卒業生が少ない今、貴重な存在となるでしょう。心の糧である音楽がテレビを中心、聞くに耐えないものに変貌しつつある時代に、どうぞ皆様方の周りやご家庭でフェリスでの貴く得難い経験を生かして真の音楽を広げていって下さいませ。

## 学部完成年度を迎えて

声楽科助教授 朝倉 薫生

音楽学部も今年で4年生まで揃い、大学として完成したことになります。しかし、音楽学部の学生は1、2年の間は専門科目の他に文学部の学生さんと一緒に一般教科の授業があり、どちらかというと総合大学の学生という雰囲気があります。3年生になって山手の校舎へ来るとなんとなく音楽大学の生徒らしくなるから不思議です。

声楽科は大学へ入学する前の専門の訓練期間が短い人が多く、声楽を始めて1年目、又は2年目の学生がほとんどです。ですから短大であった頃は、基礎の勉強を終えて、やっと声楽の本格的なレッスンができるようになった時には、もう卒業でした。じっくり落ち着いて勉強す

るところまでいかなかつたような気がします。短大時代に、発声、歌うための各種のテクニック、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、オペラアリア、オラトリオ、アウサンブルなど、せひとも身につけなければならぬ科目を駆け足で走り抜けなければなりません。しかし、今後は4年間かけて一層深く、幅広く勉強できるようになります。学生にとっても、教える先生にとっても、嬉しい事です。

短大の卒業生も現在、日本国内だけではなく、世界的に活躍している人も多く居ります。例えば、アメリカのジュリアード音楽院で勉強している齊藤京子さんは、この11月フランスのパリでピーター・ブルックス演出によるドビュッシーのオペラ『ペレアスとメリザンド』で主役のメリザンドを歌うことになっています。他にもウイーンで活躍している太美奈子さん、二期会のオペラ、ミュージカルで活躍中の相澤令子さん、伊藤久加さんなどがその例です。今後はこのような演奏家が飛躍的に多く輩出することが予感できます。

来年度からはカリキュラムも一層充実して、4年間だけではなく、大学院まで進んで勉強することも夢ではなくなりそうです。意欲のある学生にとっては大いに実りある学生生活を送れることができる環境が整いつつあるといえます。優秀な先輩たちを越える卒業生を多数送り出せるように学生たちも我々教師たちも努力して行きたいと思います。

特に本学の特徴を生かして、宗教音楽を勉強できる最高の音楽大学にするのが私の夢です。

お嬢様学校というイメージを脱皮して、日本だけではなく世界で活躍できる歌い手を多数送り出す音楽大学に成長させたいと念じております。

## 今、楽理学科では

楽理学科非常勤講師 松本日之春

初めての卒業生となる4年生、いろいろありました。大変だったと思います。何をかもが初めての体験で、相談できる先輩はいませんでした。自分達が学園生活ってこういうものかな、とイメージして手探りでここまでたどり着いたって感慨があると思います。でもそれは1期生にしか与えられない名登ある試験だった。4年生の皆の顔つきを見るとわかります。堂々とした、何が起こっても驚かない、もう立派な大人の顔つきです。そうであって欲しい、と言う気持ちも勿論有りますが……。まと

## 音楽を通しての交わり

佐藤みち子(14回)

昨年4月から1年間、主人の仕事の関係で英国シェフィールドで家族と共に過ごし、各々が得がたい貴重な経験をする事ができました。シェフィールドは、北海道より少し北に位置し、産業革命の後、工業の盛んな町として栄えましたが、今はそれも廃れ、新しい文化都市を目指している英國で5番目に大きな人口53万人の都市です。ロンドンより北へ列車で2時間半かかります。市の中心にはカセドラル、コンサートホール、美術館、劇場等が集まっています。又市の中心から車で30分ほど走ると広々とした緑の中に羊や牛、馬のたわむれる豊かな自然に囲まれた郊外になります。私達が借りた家の庭へも野生のリスが来たり、子供は友達の家でしつねやふくろうを見たとのことです。

家の近くには教会がそここにあり、英國国教会が多く、聖歌隊の素晴らしい事、又オルガニストは男性ばかりでバッハのオルガン曲が主に弾かれています。そんな中での私達の英國での教会生活の始まりをお話しましょう。私は5月初旬家から一番近いメソジスト教会の夕拜へ出席しました。石造りの天井の高い大きな礼拝堂の中、夕拜の出席人数はわずか10人足らずでしたが、バイオルオルガンの力強く立派な奏楽にとても感動しました。礼拝後、帰ろうと思いつ立つと一組の二夫妻が声をかけて下さり「どの辺に住んでいるのですか?一緒に帰りましょう」と言われ、送って下さる道すがら「何か困っている事はありませんか?」と言って下さいました。私は今ピアノをさがしている事、又オルガンも弾きたいと申しました。その方は教会の牧師を助けて説教をする方(ブ

まりのよい、運営のある、それでいて個性的な皆さんです。これから卒業までの間に、きっとよい仕事をされ、楽だっていかれると思います。

3年生は少し余裕かな?これから2年間、やりたいことの方向が少しあかり始めた、自分の力と夢との関係を焦らずに楽しく見つめているって時にいるんだだと思います。いい先輩もいるし、学年の行事にと惑うこともない。今一番美しく穎いた顔つきをしているときかも知れません。でも余裕の力があるのでからもう少し固りをよく見て自分にできる範囲の手助けを考えてもいい。先輩達の歩いた跡を下級生に伝えていってもいいのにな、とも思います。緑園と山手と生活空間が違うので難しいことだと私はいますが、今、私のクラスでは、一緒にコンピュータを使って音楽演奏のシミュレーションをやったり、いろいろな新しい音色を作ってオリジナリティの創作を目指して頑張っています。私たちのうまれ育った文化といったようなこともこの作業を通じて考え方をしてみるのもこの時期、必要なことだと思っています。

2年生はまだ甘えんばう。わあ、かわいい、という風情です。先輩達は山手に移ってしまって、淋しいのかな。ほとんどの1期生のように誰にも頼らずに自分達の道を自ら開く、その気持ちはあるけど、何となく遠慮がある、というのか、おとなしい。なにか話はじめようと、息を吸うけれど、言葉になって出てこない。そういう日が少しあったけれど今は違います。ピアノソナタを創ろうということになって、もうその第一歩、ほぼ全員がソナタ、ちゃんと3楽章そろっています。書き上げました。夏休み前にはクラスで、その録音会を開く予定です。

1年生は受け持ちのクラスがないので、まだ顔もよく知りません。でも、緑園でのびのびと楽しく勉強していること思います。音楽学部のよいところは、皆が目的意識をはっきりともつていて、入学試験はパスしたけれど大学で何をしたらよいのかわからない。取扱マニュアルに走ってみよう、とか、誰でもいい、手ひかな大人に囁みついで、自分のアイデンティティーを確保しよう、なんて手あいがないことです。自由な音楽創造、つまり、自由な人間創造をめざして、きっと楽しい人生が、待っています。

リエイチャーでした。「明日夕方6時に教会にいらっしゃい。教会のピアノが使えるように手配しておきましょう。又来週の朝の礼拝の時、主任オルガニストからオルガニストの鍵を借りてあげましょう」と言われ、私はびっくりするやら、ありがたいやら、初対面で、それも外国人の私のために直ちに願いを受け入れて下さるなんて、ただ感謝するばかりでした。

この教会のオルガニストはウェストミンスター大型堂やセントポール大型堂にある小オルガニストと同じHenry Willis & Sons社が1861年に建造した今では少ないトラッカーアクションの私のあこがれていたオルガニストでした。2人のオルガニストに色々教えていただきながらその素晴らしい音色を楽しむ事ができました。練習の折、教会員の方々は私にいつも「好きなだけ充分練習しなさい」と励まして下さいました。

ブリエイチャーは聖歌隊とは別に有志でアンサンブルを結成しており、丁度ピアニストを探していたところで私を加えて下さり、讃美歌を中心に毎週金曜日の夜、各々の家庭を交互に回りながら練習し、礼拝や祈禱会の中で、又地域の人々を教会に集めて催す音楽会、又老人のためのクリスマス会等で演奏しました。メンバーの一人でクラリネットをふく若い女性が私の家に毎週月曜日訪ねてこれ練習したりおしゃべりした事もとても楽しい思い出です。ピアノは1ヶ月ほど教会のものを使用させていただきましたが、家に10ヶ月間貸して下さる方があり、これも助かりました。

英国の生活を振り返り、キリスト教の土台の上に伝統を重んじ、愛をもって質素に堅実に生活している人々ととえ言葉が充分に通じなくても音楽を通して理解し合えた幸せを思い、今も送られてくる手紙や教会ニュースを読みながら又の再会を待ち望んでいます。

## 同窓生紹介

今日は、音楽以外の分野で活躍していらっしゃる方々をご紹介致します。  
大変に興味深いお話を書き下さいました。

### 「何故か私はパイロット」

君塚晴美 (8回)

なぜか私は小型機のパイロットです。雑誌などで取材されると必ず操縦士になった動機は?と聞かれますが案外考えて見るとコレ!と一言で言える決め手は無く、色々な要素が絡み合っていつの間にかパイロットになってしまった様なものです。一つ丈私に一番大きな影響を及ぼしたことを書きます。

今を去る10年前私はフェリスの音楽科に入学出来、娘として毎日通して居りましたが、当時は仕事でリオデジャネイロに居た両親に呼び寄せられ、フェリスを2年休学してリオに居た頃の事です。当時リオに居た各国の大公使達がアマゾンに招待されて、リオからブラジル海軍の輸送機で行く事になり、私も両親と共に往ったのですが、その時コックピットに来ないかと言われてそのまま着陸する迄操縦士の席に居ました。見渡す限りのアマゾン地帯の樹海、その他壮大な、客席から見るのは全く違った景色に圧倒され私は坐って居たのです。空港に着いた時父はブラジルの出迎えの方に、「お嬢さんがずっと操縦して来たのか(勿論冗談)」と聞かれたので、「そうだと言って置いた」と笑ったのです。これが私と飛行機の操縦を結び付ける最初の出来事となりました。

次に操縦訓練生時代の失敗談をひとつ。夜間飛行の訓練が何かで、関西の八尾空港を飛び立った寒い日の事です。八尾空港で食事の後コーヒーをたっぷり飲んで、教官と勇んでティクオフしました。しばらく良い調子でフライトしていましたが、そのうちさっきのコーヒーが利いて来ました。勿論小さなセスナ機にトイレはありません。調布空港までの着時間をどう計算して見ても我慢の限界を突破しています。仕方が無いので恥を忍んで教官に助けを求めましたら、教官は何やら一番近くの名古屋空港の管制塔を無線で呼び出して許可を貰い、名古屋に緊急着陸してようやく事無きを得ました。後で教官にそういう時は管制塔に何と言ふのか聞ききました所、「エンジン漏れの為着陸許可され度し(英語で)」と言ったとの事で、これは現在では許可されませんので念の為…。何故ならオイルが漏れる様な整備の悪いヒコーキで何故飛んで来た、と航空局から遠にお目玉を食らう事になります

### 手作りの出版の仕事

渡邊徳子 (32回)

私が出版社に勤める事になったきっかけは恩師故佐野和彦先生がつくって下さった。能雑誌の編集部に勤めていた時の先輩で、現在三月書房という出版社をやっている女性に先日お会いしたら社員を探している由「あなたに合っているかもしれないから」と紹介して下さったのである。卒業はしたものの人生の設計も立たぬまま遅々と過ごしていた私は先生の「本当にいい人なんですよ」との言葉で未知の分野に飛びこんでしまった。

三月書房は社員一人の出版社。編集から営業まで、決められた役職がなかった。すべて二人でこなすのである。入社当時の私は人見知り、話し下手、文章下手。それなのに一軒ずつ書店へ営業まわり、校正の手伝い、チラシ作成、著者への挨拶と日々課せられてゆく。何の役にも立たぬ経験をかかえた私に、三月書房という背広を着せ世間に放り出す修行をさせてくれたのが吉川志都子社長である。心も(身体も!)大きく、実直の暖かさで見守ってくれている。丁寧な仕事の進め方とどこか大らかな部分を持ち合せた人柄に、数多くの素敵著者と読者がついている。私が11年勤めているのは私も又、吉川社長のファンだからである。

からー。

さて、プロになってからの仕事は—初めは育ての親のフライング・サービス(株)と言う会社で、何年かカメラマンを乗せて空撮(航空写真撮影)をしたり、キャスターと一緒に文化放送のレジャー交通情報であらこちら飛び回ったり、ライセンサーになってしまひで飛ぶのはおっかないと言う人の為のセイフティ・パイロットをやったり、中でも面白かった仕事はテレビの刑事件の撮影協力で、飛行機が出て来る場面の俳優の代役で飛んだりした事です。飛行場はファッション誌の撮影やら映画やコマーシャルの撮影等、結構利用されるので有名人もかなり見えます。私もミーハー気分でサインを貰い始めたら、田宮二郎、由美かおる、違いが分る男の岩城宏之氏等々結構集まってしまいました。

そして現在は、一番最初にお世話になった教官と一緒に仕事を始めて12年、こちらは自衛隊ならぬ自営体ですので航空身体検査の通り定年は無く、先づは楽しくやって居ります。

最後に今後の抱負と展望を語るべきですが、企業秘密に触れる(大げさな!)部分も出てきますので、いづれ実現した時に、又お知らせ致しましょう。



三月書房の特色は随筆中心であること。社長が考案した小型愛蔵本と称する文庫サイズの薄汚な函入り上製本を作っていることである。随筆はその人自身がすべて頭れてしまふから自然ハイレベルな著者が集まってくる。そうした方々と接する機会を持つことが出来るのは本当に得難い経験と思う。特に伝統芸能の方々、98歳の現役新内演泰家岡本文彌師のしなやかな感性、歌舞伎界の重鎮片岡仁左衛門の演技の深さ、文豪三味線の名手野澤喜左衛門の氣迫の舞台、能樂師故武田太加志師の芸の厳しさ……。舞台はむろん普段の所作もキリリと美しく、話し言葉に無駄がなく、そして皆優しい。日本の伝統芸がどれ程秀れていたのか、日本人として知らずにいた事が恥ずかしかった。

わが社のもう一つの特色は手仕事の多さにある。特製本に使う特別の表紙の布を自ら裏打ち、ラベル貼り、外函作り、まるで工房のようだ。読者への宛名はすべて手書き、返品の整理や小包作りといった力仕事もある。読者から良い反応があった時の嬉しさはひとしおである。

翻みると我々の仕事のすべてが人間同志のつながりで出来ていることを深く感じる。お互いの感性が通じ合う時、より素晴らしい本が生まれる。本を通じて沢山の見知らぬ人達と共感しあえる。未知数の可能性を信じて、明日はどんな人と出会うのか、楽しみな毎日である。

### 新しい出逢いに向かって

河野顯子 (10回)

人生とは本当に思いかけない事があるという事をしみじみと感じています。今年の一月に突然、藤沢市の保守系有志の方々から主人を通して私は藤沢市の市会議員の補欠選挙に立候補して欲しいと要請があり、仰天しました。思ってもいなかつた事です。娘達は泣いてやめて欲しいと言いましたし、私自身もとてもこんな大役は出来ないと固辞しましたがいろいろな事情でとうとう引き受けてしまいました。そして信じられない程の万票の応援を受けて予想以上の得票で当選してしまいました。いろいろな事がありました。嬉しい事も感激した事もいっぱいありました。そのひとつはフェリス時代、清泉時代の同窓の方々が助ましの会や出陣式にかけて下さり、また投票日まで選舉事務所にボランティアとして手助けして下さった事です。私はそんな方々のためにもただ単なる市会議員として任期を過ごすのではなく女性として、学校で学んだ事を生かしたいと心から思いました。六月に初めて的一般質問の大役を仰せつかった時、偶然にも声楽家の畠中良輔先生の素晴らしい提言を新聞で読み、早速活用させていただきました。その一般質問の一部をご紹介させていただきます。

#### 一般質問

藤沢市市会議員 河野顯子

私は、自民同志会の一員といたしまして、通告に従って一般質問させていただきます。

二月の補欠選挙におきまして、議会の一員に加えさせていただき、僅か四ヶ月に満たない議員経験にも拘りませず、ここに質問の機会をお与えいただきましたことに、まずもってお礼を申し上げます。

(中略)

「多機能ホール」について申し上げます。全国的な傾向と思われますが、各都市におきまして、文化の殿堂と称される、文化会館や芸術劇場が次々と建設され、あたかも文化的都市の標準するかの如く、心地よい響きが聞こえてまいります。

(中略)

私が尊敬いたします、声楽家の畠中良輔先生が、去る3月18日に開催されました《芸術が生まれるまちづくりシンポジウム》に出席され、次のような感想を述べておられます。

『当節、文化会館や芸術劇場など、全国の都市に建てられる、いわゆる「文化の発信地」としての建物は、建物自体の独立性を強調するあまり、町そのものになじまなくなり、町の顔であるべきはずの劇場やホールの個性がその町のすぐたを超えるようしている。劇場やホールが出来ても、画一的で官僚的な人員配置による運営が行われるようでは、どこの町も同じような〈劇〉しか作ることができない。まず町を愛し、劇場を愛する人たちだけが、その劇場を育てるべきである。劇場のいのちは、生まれ、育ち、老いる人間と全く同じなのだ。文化の発信地などと、聞こえのいい言葉にはもう飽き飽きしている。』

私も、全く同様に考えるものであり、この言葉に接することができ、意を強くいたしております。

(後略)

こんな風にして、これからも真剣にいろいろな問題に取り組んでゆきたいと思っております。

## &lt;西南支部&gt;

三好晶子(32回)

秋も終わりに近づいた11月27日に、大島君子先生をお迎えして、恒例の白菊会西南支部の同窓会を開催いたしました。今回は、音楽科が幹事を務めました。当日は若いくの田でしたか、50名という多数の方々に御出席頂きました。大先輩から卒業されたばかりの方々まで、学生時代に戻った様に笑顔も若々しく、和気合い合いと楽しい親睦のひとときを過ごしました。大島先生からは、最近行われた「フェリス女学院120年の歩み展」のお話や、母校のいろいろな様子をお知らせ下さいました。創立120年という長い歴史の中で育まれてきた建学の精神を忘れずに、これからも多くの方々と集い合い、助け合っていきたいと思います。

福岡は、音楽活動も大変盛んなところでございまして、一年程前に、福岡市と地元企業が提携して、地元音楽家の長年の念願であった音楽練習場が出来ました。それはそれは、立派なもので、音楽ホールもございまして、現在盛んに利用されております。

福岡の街は、新鮮な海の幸、山の幸、野の幸に恵まれたとても暮らしやすく、魅力のあるところでございます。近郊、柳川には北原白秋の生家があり、今年は、没後50年を記念して、様々な行事や演奏会が行われています。皆様是非一度、こちらへお出掛け下さいませ。

## &lt;中部支部&gt;

副支部長 牛込まり(25回)

大雨の中、9月24日にFグループの「ふれっしゃコンサート」は、心よく演奏を引き受け下さった芳野靖夫先生をお迎えして始まりました。フェリスの先生方も応援にかけつけ下さり、名古屋市芸術創造センターは何ヶ月以来の満席とかで熱氣にあふれておりました。

今回出演して下さった皆さんは若い方達ばかりでしたが、それでも落ちついて(中には発熱を押しての方もありました)良い演奏ができたと思います。芳野先生にはもう少し歌って頂きたいところでしたが、プロデューサーがほんとうに時間に正確でしたので、そのまま終りました。楽屋には山のような花が届き、緊張の中にも華やかなごやかさがあり、フェリスらしさは受け取がれているものだと思ったものです。

春休み明けには、三宅洋一郎先生に先回の続編のシーマンユーゲントアルバムの公開講座をお願い致しました。やはり雨でしたがたくさんの方に参加して頂きました。シンと静まりかえたホールには洋一郎先生のお声と柔かいピアノの音が響きます。二人の方に演奏をお願いしたのですが、その二の方々の緊張をときはぐすようならたかにユーモアあふれる講座となりました。参加された皆さんも熱心にメモを取っていましたが、御自身のレッスン知識として大いにお役に立った事と思います。ユーゲントアルバムの中の一曲一曲がその他の曲や時代、作曲家とどういうつながりがあったのか又ショーマンという人がいかにユーモアのあった人であったのかと(洋一郎先生ならではの講座で)私自身も違った意味でのこの曲集に、又ショーマンに親しみを感じたものです。ぜひ又一度という熱い皆さんの拍手のもとに講座は終わりました。

夏休み明けの9月23日には中田喜直先生をお迎えしてFグループジョイントコンサートを予定しております。中田先生に来て頂くということで、普段はあまり音楽に関係のない方も参加して下さるのではないかと思っております。

中部支部では、支部長の奔走により各々の行事がつがなく進んでおります。今回名簿を作り直しましたが、総勢287名にもなります。それぞれ皆さん家庭を持たれたり現役でがんばっていらっしゃいます。もっともっとフェリスの良さを皆さんに行事を通してお伝えしていくものです。今回それぞれに若い卒業生が多く参加してくれました。いろいろな世代が同窓生という事で結びついて動いています。うれしい事ですね。

## 「Fグループジョイントリサイタルに出演して」

菅有実子(32回)

「なんて歌いやすく、そして暖かい響きのホールなのでしょう。」

これが、私のフェリスホールでの第一印象です。

フェリスを卒業して、約十年が経ちました。声楽を本格的に学び始めた時期が遅かったこともあり、音楽の基礎的なものからすべてをこの学校で学び、その後も、先生方や環境に恵まれ、今まで勉強を続けて来ることができました。しかし、まとまった形で、ある程度長い時間演奏するチャンスはなく、自分でもなかなか決心がつかずに入りました。

そんな中で、昨年、Fグループ主催のジョイントリサイタルに出演させて戴くことができ、宗教曲、オペラの他に、リサイタルの分野への興味は一層深まつたように思います。

実際に演奏を終えて、学ぶことは想像以上に多いものでした。演奏内容そのものについては勿論ですが、どうしたら聴衆の方々を飽きさせず、最後まで楽しんで戴くことができるか、又、当日まで、身体的にも精神的にもコンディションを整えること、一自分を自分自身で上手にコントロールしていくことなど一今後の課題も沢山ありました。

この経験を生かし、今年はソロリサイタルを予定していますが、チラシのデザイン、プログラム作りから当日の録音など、演奏の他に事務的な仕事が山のようにあります。Fグループジョイントリサイタルでは、この様なことも、同窓会の方々が細やかにご配慮下さっていましたので、演奏だけに専念できたのだ、と今になって改めて感謝しております。

どうぞ皆様も、母校のこの様な企画を利用され、日々の成果を発表なさってみてはいかがでしょうか。

## —今年度「Fグループ研修会」のお知らせ—

92.9月25日(金)

ドイツより、Wiesenes美知子さん(田高梨、11回)を招えて  
テーマ「ドイツ人の国民性と生活」

—「Fグループジョイントリサイタル」  
のお知らせ—

92.11.20(金) フェリスホール

- ・2台のピアノによる演奏と、弦楽アンサンブル
- Fグループの演奏
- 本村みどり(36回) Pf.
- 伊坪 淑子(41回) Pf.
- 久保田良作先生指導による弦楽専攻の卒業生

## —Fグループ後援演奏会—

91.10月20日(土) アンサンブルITMS第2回演奏会  
横坂スタジオ

- Pf. 池内美文(40回)  
Fl. 玉佐 錠(40回)  
Vc. 宮崎容子(40回)  
Vn. 清水牧子(39回)

91.11月21日(日) 江口元子リサイタル(4回)  
サントリーホール(小)91.12月9日(日) 三田陽子リサイタル(6回)  
神奈川県民小ホール92.6月19日(金) 萩田美知子リサイタル(21回)  
ルーテル市ヶ谷センター

後援の申し込みは、執行委員までお願い致します。ただし、一人につき年1回、3ヶ月前迄に御連絡いただいたもののうち、役員会で承認したもののみといたします。尚、Fグループジョイントリサイタルにつきましては、随時受け付けておりますので、是非お申し込み下さい。

執行委員 今井久美子(27回)

川添久美子(34回)

## 1991年度Fグループ収支決算報告書

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	8,110,551	91年Fグループ後援費用開催費	121,326
ソロリサイタル開催	368,000	ソロリサイタル開催費	299,296
他会員費	280,000	同窓会会員費	151,044
研修会受講料	91,500	学生幹事会	116,229
名簿代金(受取分)	1,503,000	同窓会会員費	350,280
「音の丘」音楽祭生徒上	304,390	研修会開催費	136,380
フェリスカード加盟店	12,900	Fグループ会員開催費	333,358
冠名シール	21,360	同窓会名跡開催費	2,506,857
銀行料	114,311	運営費	193,119
		交際費	7,416
		事務開催費	38,967
		役員会出張及び交通費	268,981
	10,805,802		4,742,349

総収入 総支出 次年度繰越金  
10,805,802 - 4,742,349 = 6,063,453

定期預金 5,000,000  
普通預金 1,063,453

1992.3.31現在

## 役員紹介

- 会長 大島君子(3回)  
 副会長 熊本美也子(17回) 永川恵子(25回)  
 書記 江原郁子(8回) 東海林裕子(20回)  
 会計 斎藤令子(11回) 藤村公子(11回)  
 執行委員 今井久美子(27回) 川添久美子(34回)  
 永里佳子(34回)  
 会報委員 上月早苗(23回) 田中薰(25回)  
 当番幹事 日比野容子(14回) 藤原純子(14回)  
 石井朝美(37回) 長尾明子(37回)  
 会計監査 中島恭子(9回) 熊取谷春子(16回)

会報への御意見御感想、また企画についての御希望等ございましたら、是非御連絡下さい。

会報委員 上月早苗

田中 薫